

国際社会貢献センター 設立一周年を迎えて



みや はら けん じ
宮 原 賢 次

社団法人日本貿易会 会長
住友商事株式会社 社長

昨年5月、私は日本貿易会の会長に就任する際「世界を豊かに貿易会」というキャッチフレーズを掲げました。商社は貿易活動を通じて世界の発展に寄与してきたわけですが、今大きく変化する世界の中であって、さらに広く積極的に社会に貢献していく道を開き、新たな努力をしていく必要がある、との思いからでありました。その一つの具体例として、昨年4月に設立されたばかりの「国際社会貢献センター(ABIC)」には大いに期待をしておりました。

ABIC設立1年を迎え、この月報の特集でご紹介しましたように、既に海外だけでなく国内においても少なからぬ方々が活動を始めておられます。私が期待していた商社OBを中心とした方々の熱意と活力と、そうした方々へのさまざまなニーズがあることが、はっきりと見えてきたように思います。特集の座談会に出席いただいた各界の方々が、真剣に語っておられる今後の日本社会のあり方、われわれ日本人の姿勢への問いかけは、今後の活動への力強いエールと受け止めております。

ABICは既に本年1月に特定非営利活動法人、いわゆるNPO法に基づく法人としての申請を行っており、順調に審査が進めば、この月報が出る頃には認証を得て正式に登録をすることになっています。私もその独立したABICの会長として、今後は日本貿易会の会員に限定せず、広く一般からもABICの目的に賛同する会員を募り、途上国における国造りや、日本へ来られる留学生の支援、中小企業の国際化や地方自治体における国際交流への取り組み、国際教育の推進、国際スポーツ大会での語学を生かしたボランティア活動など、活動の範囲も一層広げていきたいと考えております。

経済界、業界団体が母体となって設立するNPOは、あまり前例のないことであり、私どもも手探りのようなところがありますが、お蔭様で多くの方々からの声援も得て、予想以上に活動が広がっております。私どもは貿易業界で、その特徴である国際ビジネスの経験をよりどころにして活動を始めましたが、同じようにいろいろな分野、地域でも、同様なことが展開できるのではないかと、一つそういう動きへの手本ともなればという思いで関係者一同やっております。

日本経済も必ずしも順調とは言えず、政治・社会にも閉塞感がありますが、そうした時であるからこそ、新たな視点を持ち、新しい行動を起こしていく意義があるのだらうと思います。貿易業界としては、それを日本国内にとどまらず、グローバルな広がりの中で新しい貢献をするべく、また、豊かな世界を実現するべく、引き続き皆さんの叡智を集めて取り組んでいきたいと考えるものです。